

481

昭和十八年一月廿四日(日)。

前寒といふから、さすがに何日か一週間程
前の早朝気温十六度、相当の寒気振りで、自來
屋の中にゐる起きかけの氷浴には、浴場が約
one blockの距離にあらたけ、一寸閉口したものの、
翌朝日に到り、遽に気温上昇して、八十度だ。
寒中八十度ほど未だ想像も及ばず、初めて経験
である。午後六時半句会に出席、同好の御人
約十三名。先般区院わの旧暦日ル久し振りで
出席したのであったが、矢張り腰工合が良くあつ
た、其の次の句会は従つて欠席したのであったが、
今夜は堪へがたい村々等はあつた。

昨日わ、同胞に base ball game が柵の ground
に遊ばれたので其の見物のため、柵内には残った
者は極めて少く静かである村の如し。ベースボール
の音が soft ball ばかりで変態も無い。

上田仁助君(六十三歳)は長らく入院療養中
昨日死去したの事である。公君は Panama 在住
理髪業に従事し、病に冒され静養裡に捕はら
れ盡し、引き続き入院、その間米に移送され
南米病院に患者として今日に到つたのである。リウ
マチスに患病といふ。僕が区院の時は、既に
ドラクから同様の死は何時の問題だと思はれてゐた。

一月廿五日(日)

午後三時 2 Area に於て故上田君の葬儀執り

上田君
死去

482

各区域の同胞は、捕虜兵を除き、全部会葬。引席の僧侶及び牧師は約六十名に達し、布哇の西に於ける教会に牧師、導師と共に、細雨裡に清経、厳肅に営はれた。

Idaho州 Hunt Relocation Center から十二月十六日附書面が大西昌子嬢より来た。例によって要領を付した書である、今 Center 構内の泥濘に堪へ難い旨が詳述に載つてゐた。僕の病状については "gradually recovering" と懇切に見舞の辭を添へてゐた。

昨日午後、在院中レタールの伊藤先生から贈られた金糸色製の鱒むくも紙人形と、不肖文人の宛封先付。月一回 4 Pound 迄の物子は外寄への寄金は無税で取り扱つて呉れる。右人形は病氣快復退院の意味を察知して貴子喜望に送らうとある。

今日わが Kakea 宛に配達された郵便は合計一十通に達したと云ふ。但し軽荷で一度検閲されるに付、暫く延着してゐるのは申上もよい。

此頃丹保及び高橋両氏が薩摩琵琶の稽古を始めてゐる。ねがひ 1906 の同僚中には、却々の趣味家が多い。佐田氏の俳句、~~高橋~~及び繪画、高橋氏の琵琶、丹保氏の琵琶、習字、繪画には親世流いづ（最近稽古）、篠目氏の繪、佐々木氏氏の将棋、高村氏の川柳、石塚氏の将

483

棋及び英語勉強。岡本君の怪等々である。何い
うな結構なやうであり大に推奨すべし。

夜に急に寒気増し、気温は急低下し始めた、午
前のおちろよと云う地方は、今日頃から freezing cold
になると豫報に於る。全く狂気候だ。

一月廿六日(火)

碓氷川沿いの寒風に堪えられず、目覚めベツトを起させ
てストーブに火を点す。折しも痛快な稲妻がバツツ
内に閃き、まるで照射燈を近距離から照らした
かやうな感じがした。電が来るかと思つてると其の瞬間、
猛烈な雷鳴が屋も崩れんばかりに響き渡った、
と同時に沛然と雨降り、雨と共に寒気愈々甚
しいので、時計を見ると午前二時である。餘り早
いで起きてぬる汗はけりかた復又床にもぐり込
んた。斯う寒いと便所の蓋の音が閉口した。

寒いと言ってもポータランドの冬と大差は無いが、バ
ツツに室内の防寒設備が不完全だから
やうな寒い。

萩、崎村君から報告、其の中最もものは来
る二月一日から、各自の保管をしてる所有金に
関し balance を明示する通帳の如きものが配
布され、其のいふ通り毎月金三十弗を引き去り得る
形になつたと、昨日 Robert Marshall が来て、若々
Interners に對し公表した、尚ほ夜 Balance 帳